

# “The Second Phase of Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program Automated Driving for Universal Services / Strategic Planning for the Advancement of Social Acceptance and Survey regarding its Evaluation”

2020-2022 Fiscal Year

Abstract

Dentsu Meitetsu Communications Inc.  
SC-ABeam Automotive Consulting

March, 2023

# <Commissioned to Dentsu Meitetsu Communications Inc.>

## 1. Contents and results of research and development

### (1) SIP-adus interim results presentation event

#### A) overview

- Traffic environment information, safety evaluation in virtual space, cyber security, geographical data distribution portal Four key points and the FOTs (Field Operational Tests) in Tokyo waterfront area and automated driving services in hilly and mountainous areas, fostering social acceptance, Introducing initiatives such as strengthening international cooperation
- Considering a system that allows online participation under the corona wreck
- Guided tours to deepen the understanding of participants are also solicited and implemented both at the venue and online



# (1) SIP-adus interim results presentation event

## B) date and place

- Thursday, March 25, 2021 to Friday, March 26, 2021
- Tokyo Fashion Town Building (TFT) Hall 1000

## C) Exhibition composition

- Consists of welcome zone and 4 zones
- Virtually all exhibits, explanation panels, and videos can be viewed online
- Create a fun and realistic remote experience with 3D walkthrough content



# (1) SIP-adus interim results presentation event

## D) Number of participants

- Total 1,097 people

## E) Media publication results

- Response, clicccar, carview, Nikkan Kogyo Shimbun, NEXT MOBILITY, Yahoo! News (reprinted), etc.

The screenshot shows a news article titled "内閣府S I P、来春めどV B設立 自動運転の安全性評価" (Cabinet Office S I P, V B establishment by next spring, safety evaluation of autonomous driving). The article discusses the S I P program's goal to commercialize simulation technology for autonomous vehicle safety evaluation. It mentions the involvement of Toyota and the establishment of a 3D dynamic map base in Tokyo. A video player shows a simulated driving scene in the rain. The article is dated 2021/4/1 05:00.

トップ > 中小・ベンチャー・中小政策 > 記事詳細

新聞購読を申し込む 電子版を申し込む

小 中 大

内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム (S I P)

### 内閣府S I P、来春めどV B設立 自動運転の安全性評価

ツイート シェア LINEで送る (2021/4/1 05:00)

内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム (S I P) は自動運転の安全性を評価するシミュレーション技術を事業化するベンチャーを2022年春をめどに立ち上げる。安全性評価は自動車の認証評価にも関わる重要技術。国の研究開発プログラムとして基盤を整備し、ベンチャーの事業として継続的に技術を開発実用化する仕組みを整える。

S I Pでセンサーシミュレーション技術を開発する三菱プレシジョン (東京都江東区) や日本ユニシスが中核となりベンチャーを立ち上げる構想。同プログラムからは高精度3次元地図「ダイナミックマップ」を開発運用するダイナミックマップ基盤 (東京都中央区) が設立された。地図用の計測機器を開発する三菱電機が中心となり自動車会社や地図会社などから出資を受けた。安全性評価シミュレーションも同様のスキームを構想する。

S I Pでは高性能センサー「LiDAR (ライダー)」やミリ波レーダー、カメラの三種類のセンサーのシミュレーション技術を開発した。自動運転では三種類の計測値を統合的に処理する「センサーフュージョン」が求められている。

課題はミリ波レーダーの反射が虚像になり、同時にライダーのデータが欠けるなど複合的な条件で発生するシーンへの対応になる。シミュレーションなら過酷なレアケースを再現してシステムが問題なく対応できるか検証できる。

顧客は完成車メーカーや認証評価機関、保険会社などを想定する。

(2021/4/1 05:00)

三菱電機 Biz Timeline

コロナ禍の引越し事情、新しい「つながり」とは? 社会課題を素早く読み解くヒント集 3 min column

ようこそ、n.moriuchi@dmc.dentsu.co.jpさん (ログイン中) [ログアウト]

無料登録会員 今月の閲覧済み 1本 (残り10本) ※有料会員登録記事を月11本まで閲覧できるなど、一部機能をご利用いただけます

マイページ | マイニュース | マイクリップ 総合ガイド | アイコンについて

電子版有料購読の申し込み (月額: 4,400円)

電子版からのお知らせ >

日刊工業新聞社からのお知らせ >

ご存知ですか? 記事のご利用 (著作権) について

## (2) 1st Joint Test Ride Event

### A) Date and place

- April 20 (Tue)-April 21 (Wed), 2021
- Oedo Onsen Monogatari parking lot

### B) Exhibitor

- Valeo, Kanazawa University, Continental, Subaru, Tier IV, Toyota, Nissan, Honda, Hino/Toyota 9 companies in total



## (2) 1st Joint Test Ride Event

### C) Participant

- 102 people in total

	media	participant
20, April	24	53
21, April	30	49
total	54	102

### D) Implementation content

- Test ride experience including explanations from exhibitors
- Briefing on the Tokyo Waterfront Area FOTs, etc.

### E) Others

- 19101716-0 "Survey on strategy formulation and evaluation for fostering social acceptance / Comprehensive strategy formulation, planning and implementation of information dissemination on the Web, etc." Responsible for part of planning, venue negotiations and secretariat

### (3) 2nd Joint Test Ride Event

#### A) Date and place

- Monday, October 18, 2021 to Wednesday, October 20, 2021
- On the 18th, there was a test-ride event for the promotion committee members, an inspection and test-ride event for the task evaluation committee members, etc.
- Tokyo International Cruise Terminal No. 2 parking lot, etc.



※Source of map : OpenStreetMap

<https://www.openstreetmap.org/copyright/>

### (3) 2nd Joint Test Ride Event

#### B) Purpose

- Activities for the FOTs in the Tokyo waterfront area starting in November
- Experiencing technologies and systems in collaborative fields with actual models to promote understanding
- Each exhibitor used it as a place to appeal their advancedness while covering explanations on collaborative fields with SIP briefings.
- Promoting Japan's safety concept based on the revision of the Road Traffic Act and Road Transport Vehicle Act in April, and the new WP29 standard AEB mandatory for new vehicles from November

#### C) Exhibitor

- Valeo, Continental, Tier IV, Toyota, Nissan, Honda, Suzuki, Daihatsu, BMW 9 companies in total





### (3) 2nd Joint Test Ride Event

#### D) participant

- Total 132 (including 15 promotion committee members and 13 evaluation committee members)

#### E) Implementation content

- Test ride experience including explanations from exhibitors (safety technology experience, expressway support system, Tokyo waterfront area FOTs test vehicle)
- Briefing on the Tokyo Waterfront Area FOTs, Visual impairment experience, etc.



### (3) 2nd Joint Test Ride Event

#### F) Media publication results

- Mono Magazine, My Navi News, New Switch, Beyond Health, GQ Japan, Excite News, Niconico News, IT media Business Online, Yahoo! News (reprinted), etc.



船越を過ぎた筆者、地方の取材などへの深夜の長距離ではACCが大活躍である。そういったACCを含めた自動運転の試乗車があり、どれとどれと出かけて行った次第。

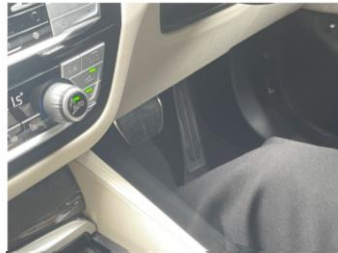


自動走行システム (SP-Adm) はクルマや道路に関する総務省、経済産業省、国土交通省、警察庁といった国の機関をはじめ、自動車メーカー、大学、モータージャーナリストなど官民一体となって取り組んでいるプログラムの一つ。今回筆者が試乗したメーカーはBMW。



BMWの自動運転技術といえば日本初の実験付きドライブオフを実現したメーカーである。今回は運転だけでなく、助手席での体験を希望した。理由はこういった自動運転技術がドライバーにならなくともいろいろな場面で使われることができれば、パワステやブレーキなどクルマの操作が楽になる。その辺りを体験してみたかったのだ。試乗車はPHVの530e。S30eはS1シリーズはセタンにのみ設定されたPHVモデル。パワーユニットは2リッター直列ターボ (184PS/2000rpm) にモーター (88PS/1300rpm) を組み合わせ、システム最高出力225PS、520kmを誇る。PHVながらもBMWのスポーツなイメージが維持されるように、エンジンの回転の振動がモーターが十分にトルクを出し、レスポンスの良さや気持ちのいい加速を確保してくれるのだ。

さて、助手席に陣取っていざスタート。高速道路まではさすがPHV。モーターのみの走行で数時間余裕はあった。高速への合流はさすがで、本道に入ってから車速のスイッチオン！ ドライバーはペダル操作から解放される。もちろん、運転の状況が必要だけれど、



当たり前だけれど助手席では言わなければクルマが運転しているとは笑えない。ちなみに道路の状況はカメラとレーダー、高性能ナビセンサーの組み合わせで認識と正確性が向上したモデルを採用し、これらはソフトウェアにすべて標準装備となっている。これらがスゴイのだ。トラックはトラックとクルマが認識しているのがメーターからわかる。



しかも隣の車線まで、また前車に追従するくらいならACCでも大丈夫。それにキケンと重なるあたりはドライバーの感知に似、車線変更時にはウィンカー操作に応じて自動で車線変更してくれるステアリングアシストコントロールも便利だと思う。



横から見ていてもドライバーの注意や非同期時の操作は必要だけれども、ステアリングが動くのは本格的だ。加えて乗客が楽しめ、ハンズオフ操作でステアリング操作はクルマがやってくれる。



### 「つながる信号」で自動運転はどう変わるのか【石井昌道】の自動車テクノロジー最新情報

SHARE 0 0 0 0

自動運転・東京防止ブレーキ

#### 石井昌道の自動車テクノロジー最新情報

## 「つながる信号」で自動運転はどう変わるのか



▼ 石井昌道 写真 ● SIP自動運転

当コラムで何度も取り上げてきたSIP自動運転だが、2021年度の東京臨海部実証実験として今秋から、これまでのV2I (Vehicle to Infrastructure = 領域通信) からV2N (Vehicle to Network = 公衆域ネットワーク通信) によるものと切り替わる。そのうち臨海部地域 (お台場地域) の信号情報について紹介したい。

世界初の自動運転レベル3試乗でわかったこと【石井昌道の自動車テクノロジー最新情報 第1回】

Mercedes-EQの走りを探る【石井昌道の自動車テクノロジー最新情報 第24回】

ゼンエミッションを語る石井昌道【前時代のモーターズレポートを休載【石井昌道の自動車テクノロジー最新情報 第25回】

ホンダが自ら新領域のチャレンジとは【石井昌道の自動車テクノロジー最新情報 第26回】

最高レベルの自動運転技術が長距離運転にもたらす恩恵【石井昌道の自動車テクノロジー最新情報 第27回】

この記事の目的

2021年秋から「V2N」の実証実験をお台場で実施

2021年秋から「V2N」の実証実験をお台場で実施



ITS無線機と信号

2020年度の東京臨海部実証実験は、信号情報や合流支援情報などをV2Iで配信し、実車両方からそれを受け取って利用することで有効性や課題をみてきた。

V2Iはクルマと路側側のインフラによる通信で、路側側通信なども呼ばれる。信号情報では、信号機が発信機を取り付け、クルマは受信機で情報を受け取っていた。赤か青か黄色かといった信号の色情報だけでなく、あと何秒で赤か青に変わるなどの残秒数情報も配信。こういった情報が無い場合、自動運転車は人間と同じようにカメラで信号をみて判断するが、大きなトラックや消防車に連れられて、逆光や曇天で見づらかったりといったこともある。すでにある既存の信号、あるいは既存の色や光の発光などと照合してしまえば、人間よりも機械のほうが読みやすい。以前には、信号機が電球からLEDに切り替わればカメラで情報処理できず、自動運転車の実用ができなくなることもあった。自動運転車が一筋の信号交差点を安全・円滑に通行するには、信号情報は重要なのだ。

また、自動運転車を運転で体験するとかこのことだが (滅多にできない体験だが)、自分でアクセルやブレーキを操作していないことから、加速や減速の微細な変動などがすぐ気になるものもある。赤信号に対して緩やかに減速していたら青に切り替わったから加速に移るなどという場面でもかなり不快に感じるのだ。こういった信号情報は自動運転車だけではなく、一般の車両にとっても安全・円滑な通行に寄与するはず。とくに、要客が立っていることもある路線バスなどは有効で、実際に採り入れているケースもある。



「V2N信号機」を活用した信号制御による交差点/入道先通行も実証実験が行われる

東京臨海部実証実験には国内外の自動車メーカー、サプライヤー (自動車部品メーカー)、大学、ベンチャー企業など29の団体が参加。2019年10月から始まった信号情報の実証実験は、コロナの影響による中断期間があったものの、2ヶ月の延長を経て2020年2月まで行って、走行距離は約5万5000km。実交通社会への自動運転車の普及の準備などもしつつ、その有効性は確認できた。

そして2021年秋からはV2Nによる実証実験が始まる。携帯電話などで広く利用されているLTE回線を使用するので、信号機の発信器など特別なインフラはいらない。信号情報、気象情報、交通規制、道路交通情報等の生産、配信等に依る実証実験であり、拡張性、汎用性という意味では飛躍的に広がる期待。信号情報だけではなく、たとえばクラクションやブレーキによる情報の発信、緊急車両の注意喚起と回避、渋滞予測情報によるスムーズな車線変更なども行える。

#### (4) Holding technical seminars

- A) Overview: Four seminars were held online to explain the technology in an easy-to-understand manner. After the implementation, it is archived on Youtube and made available for viewing.
- B) 1st seminar: Considering about Liability Issues in Automated Driving - SIP-adus Online Seminar (June 24, 2021)
- Takeyoshi Imai (Professor, Hosei University Graduate School of Law, Attorney at Law) / Mitsuhiro Makino (Counsellor for Intelligent Transport Policy, Director-General's Secretariat, National Police Agency)
  - Explanation and Q&A session on key points of the revised Road Traffic Act and legal interpretation including case studies.

SIP-adus社会受容性向上イベント 6/24開催

**自動運転時の責任問題**  
に関するウェブセミナーのご案内

  
法政大学大学院  
法務研究科教授  
弁護士 今井 猛嘉 氏

  
警察庁 長官官房 参事官  
(高度道路交通政策担当)  
牧野 充浩 氏

  
国際モータージャーナリスト  
清水 和夫 氏

#### (4) Holding technical seminars

##### C) 2nd seminar: “HMI and Driver Overconfidence” (December 21, 2021)

- Toshihiro Hiraoka (Specially Appointed Professor, The University of Tokyo) / Takahiro Tochioka (Mazda Product Strategy Division, Manager)
- Explains how drivers should communicate with evolving technology, how far automated driving technology can understand the driver's intentions, and what next-generation cars should be.

##### D) 3rd : “Software Update and Cybersecurity” (January 21, 2022)

- Toshio Asahi (Automated Driving and Advanced Safety Development Department, Toyota Motor Corporation) / Tetsuya Shinkuni (Traffic Safety and Environment Laboratory)
- Explanation of the changing environment surrounding today’s software updates, their importance, challenges and initiatives, and cyber security issues associated with them. A panel discussion with moderator Shimizu also was held.

SIP-adus社会受容性向上イベント第2回技術セミナー  
「HMIとドライバーの過信」を考える



SIP自動運転推進委員会  
サービス実装WG構成員  
モータージャーナリスト  
清水和夫

東京大学 生産技術研究所  
自動運転の車両運動制御  
寄付研究部門  
特任教授 平岡敏洋

マツダ株式会社  
商品戦略本部 主査  
栃岡孝宏

SIP-adus社会受容性向上イベント第3回技術セミナー  
「ソフトウェアアップデートと  
サイバーセキュリティ」



SIP自動運転推進委員会  
サービス実装WG構成員  
モータージャーナリスト  
清水和夫

トヨタ自動車  
自動運転・先進安全開発部  
旭 利夫

情報セキュリティセンター(CST)  
(株)自動車技術総合機構交通安全環境研究所  
新国哲也

#### (4) Holding technical seminars

##### E) 4th seminar: "Collaborative Areas of Mobility Data Utilization and Data Provision" (March 15, 2022)

- Hiroshi Matsui (Executive Officer, General Manager, Automotive Systems Division, Sumitomo Rubber Industries) / Hirokazu Ichikawa (General Manager, Social Infrastructure Solutions Division, NTT Data Corporation)
- Lectures on the forefront of data utilization, including the creation of new services expected from the sharing, coordination, and utilization of the vast amount of data that will accompany the spread of connected cars. A panel discussion also was held.

SIP-adus社会受容性向上イベント 第4回技術セミナー  
**モビリティデータの利活用と  
データ提供の協調領域**

3月15日(火) 15:00~16:30  
オンライン開催

**無料**

**松井博司 氏**  
住友ゴム工業株式会社 執行役員  
オートモーティブシステム事業部長

**市川博一 氏**  
パシフィックコンサルタンツ株式会社  
デジタルサービス事業本部 技術部長

モデレーター  
清水和夫

モデレーター  
磯 尚樹

#### (4) Holding technical seminars

##### F) Number of registrants and participants

Title.	date(s) (e.g. for exhibition)	Number of registrants	Number of participant s
1st: Considering Liability Issues in Automated Driving ~SIP-adus Online Seminar	June 24, 2021	560	470
2nd: Technical Seminar "HMI and Driver Overconfidence"	December 21, 2021	175	160
3rd: Technical Seminar "Software Update and Cyber Security Issues"	January 21, 2022	275	240
4th: Technical Seminar "Collaborative Domain of Mobility Data Utilization and Data Provision"	March 15, 2022	220	180

## (5) 3rd Joint Test Ride Event

### A) Date and place

- September 29th (Thursday) to October 1st (Saturday), 2022
- Aomi R Section Special Venue

Sep 29	AM	Ministry officials, SIP officials
	PM	
Sep 30		media, journalist
Oct 1		University students, teachers, local community associations, Vehicle exhibitors (mutual test drive)



## (5) 3rd Joint Test Ride Event

### B) Purpose

- "Japan leads the world in traffic safety in a future symbiotic society that respects diversity" -Aiming for a traffic safety society that considers not only drivers and passengers, but also the vulnerable and users of traffic-
- "Culmination & Bridging" of the second phase of SIP-adus

### C) Exhibitor

- Valeo, Kanazawa University, Saitama Institute of Technology, Suzuki, Subaru, Daihatsu, Tier IV, Toyota, Nissan, BMW, Honda, Mazda; total of 12 companies (organizations)

Exhibitor	Test drive	Exhibition car
Valeo Japan	◎	
Kanazawa University	◎	○
Saitama Institute of Technology		○
Suzuki		○
SUBARU	◎	○
DAIHATSU		○
Tier IV	◎	○
Toyota	◎	
Nissan	◎	○
BMW	◎	○
Honda	◎	○
Mazda	◎	





## (5) 3rd Joint Test Ride Event

### D) Participant

- The target audience was expanded, and a wide range of participants were recruited at different times, such as government officials, SIP officials, media journalists, university students and teachers, neighborhood residents' associations, and mutual test rides among exhibitors.
- A total of 249 people (225 of whom test-rode)

Participant

		Media	Ministries/ Stakeholders	Students/ Teachers	Local resident	SIP officials and others	Total
29, Sep.	Thu	21	57	0	0	15	93
30, Sep.	Fri	59	0	0	0	16	75
1, Oct.	Sat	4	1	41	2	33	81
Total		84	58	41	2	64	249

Test-rider

		Number of seats	Number of test-riders
29, Sep.	Thu	120	82
30, Sep.	Fri	120	63
1, Oct.	Sat	141	80
Total		381	225

## (5) 3rd Joint Test Ride Event

### E) Survey summary

- Test rides, presentations, and exhibitions all have a positive effect on promoting understanding and raising interest.
- The test ride and exhibition provided a better understanding of the technology and functions, while the presentation increased the appeal of autonomous driving in general and heightened interest in the autonomous driving society.
- In the future, it will be effective to provide opportunities for proactive (preferably real) experiences to promote understanding and increase interest.
- Ministries and related parties are aware of the impact of experiences such as test rides on their own work.

### F) Interview summary

- The test ride experience and explanations by the guides are useful for understanding
- Overall positive response

## (5) 3rd Joint Test Ride Event

### G) Media exposure

- 38 media cases, 4 non-media sites, etc. Total 42 cases



タクシーや路線バスの自動運転を体感、実用化への“距離”も見えた…SIP 展示・試乗会



いま国内の自動運転技術は、どこを走り、どこへ向かおうとしているか。そんな自動運転トレンドが体感できるイベントが、東京都海都心、青海R地区で9月29日～10月1日に行われた。内閣府が手動するSIP自動運転（システムとサービスの拡張）プログラムの「SIP 自動運転 実証実験プロジェクト 展示・試乗会」だ。

このSIP 自動運転 展示・試乗会には、ヴァレオジャパン「ヴァレオ DRIVE4U レベル4相当自動運転システム」（ランドローバー「レンジローパーイヴォーク」）をはじめ、トヨタ「ミライ」、レクサス「LS」の高度運転支援、ホンダ「レジェンド」のセンシング・エリート、ホンダ「自動運転車両クルーズAV」、スズキ「浜松自動運転やまのまちプロジェクト実証実験車両」（「ソリオ」ベース）、スバル「WRX S4 STI Sport R EX」、ダイハツ自動運転実験車（「タント」ベース）、日産「アリア」、プロバロットコンセプトゼロ、BMW「iX2」、iX5のハズ・オフ機能付き渋滞運転支援機能、マツダ「CO-PILOT CONCEPT 技術試作車」、マツダ「MX



タクシーや路線バスの自動運転を体感、実用化への“距離”も見えた…SIP 展示・試乗会

2022.10.02 19:30

コメント 0件 シェアする ツイート



いま国内の自動運転技術は、どこを走り、どこへ向かおうとしているか。そんな自動運転トレンドが体感できるイベントが、東京都海都心、青海R地区で9月29日～10月1日に行われた。内閣府が手動するSIP自動運転（システムとサービスの拡張）プログラムの「SIP 自動運転 実証実験プロジェクト 展示・試乗会」だ。

このSIP 自動運転 展示・試乗会には、ヴァレオジャパン「ヴァレオ DRIVE4U レベル4相当自動運転システム」（ランドローバー「レンジローパーイヴォーク」）をはじめ、トヨタ「ミライ」、レクサス「LS」の高度運転支援、ホンダ「レジェンド」のセンシング・エリート、ホンダ「自動運転車両クルーズAV」、スズキ「浜松自動運転やまのまちプロジェクト実証実験車両」（「ソリオ」ベース）、スバル「WRX S4 STI Sport R EX」、ダイハツ自動運転実験車（「タント」ベース）、日産「アリア」、プロバロットコンセプトゼロ、BMW「iX2」、iX5のハズ・オフ機能付き渋滞運転支援機能、マツダ「CO-PILOT CONCEPT 技術試作車」、マツダ「MX

### H) Consideration

- Understanding of SIP is well advanced (conversations with participants, published articles, etc.)
- There is good stimulation between participants
- The organizer's exhibition zone is also visited with interest
- The test ride experience has a great impact on increasing interest and concern, and there is also awareness of the positive impact on one's own work.

## (6) Achievement Exhibition

### A) the purpose

- FOTs, basic technology development, fostering of social acceptance, and results of international collaboration under the SIP would be exhibited and widely disseminated.
- Introducing the aim and outline of "RoAD to the L4", which the Ministry of Economy, Trade and Industry and the Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism are working together, and using the results as an opportunity to connect to the next stage

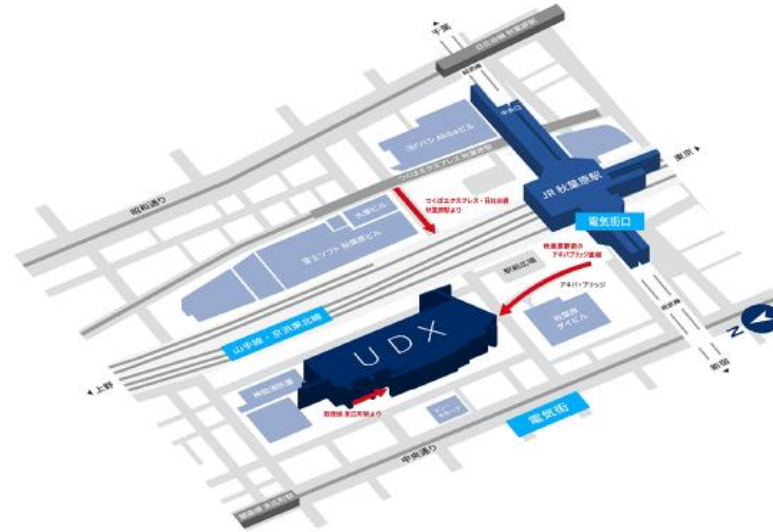
### B) overview

- We exhibited the main themes that we have been working on in SIP-adus by dividing them into different zones.
- Exhibiting Japan's world-leading virtual safety evaluation environment and the latest equipment for real safety assessment
- We exhibited some of the test vehicles that ran safely for three years in the Tokyo waterfront area FOTs, and the Honda Legend, a level 3 model that was introduced to the market for the first time in the world by Japan's legal development, and also exhibit vehicles that are undergoing driving tests with the aim of becoming an automated driving transportation service throughout the country. Through these efforts, the aim is to create an exhibition that allows people to experience the implementation of automated driving in society.

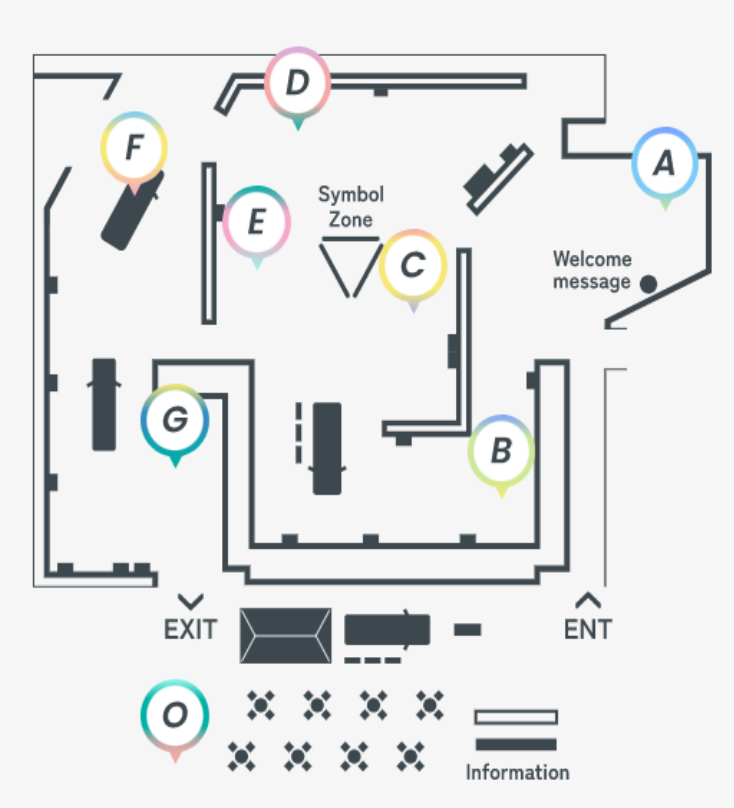
## (6) Achievement Exhibition

### C) Date and place

- March 7 (Tue) to 8 (Wed), 2023
- Akihabara UDX 2F "UDX AKIBA SQUARE"



(6) Achievement Exhibition  
D) Floor plan of the venue



## (6) Achievement Exhibition

### E) exhibition composition

A: Basic information about this exhibition, such as SIP, Society 5.0, and autonomous driving

B: Utilization of traffic environment information, etc. centering on FOTs in the Tokyo waterfront area

C: Safety of automated driving centered on virtual and real safety evaluation environments

D: Standardization in the autonomous driving field, movement toward international standardization

E: Initiatives for data collaboration and distribution for the realization of Society 5.0

F: Initiatives such as fostering social acceptance by SIP-adus and creating test ride opportunities

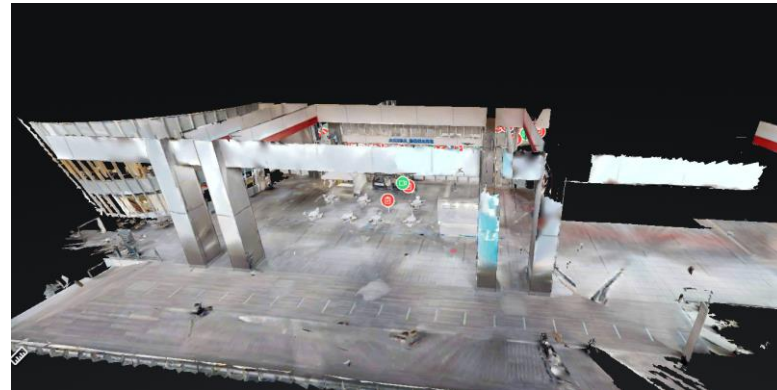
G: Introduction of future efforts by the Ministry of Economy, Trade and Industry



## (6) Achievement Exhibition

### F) Remote compatible

- Set up an online exhibition site that allows access to almost all content (description panels, videos, etc.) of the venue online.
- We also created a video that guides you around the venue and posted it on the site.
- 3D walkthrough content is also available, and by making it possible to access all content from here, we devised ways to enjoy the online exhibition while feeling the reality.





(6) Achievement Exhibition

G) Number of participants

	3/7	3/8	Total
reception	191	165	356
media	4	2	6
guided tour	53	74	127
venue total	248	241	489
online guided tour	71	79	150
online exhibition site (number of UUs)	209	218	427
online total	280	297	577
grand total	528	538	1066

## (7) Outcomes and considerations

- A) Fortunately, the joint test-ride event and results presentation were held at a time when the number of infected people had calmed down, and we were able to attract customers, mainly media and journalists. By adding briefings and exhibitions to the simple media test-ride event, we were able to promote a deeper understanding, and it was significant that we were able to reflect this in media exposure.
- B) We held two results presentations, one in the middle and one in the final, and we believe that the promotion of exchanges between exhibitors, such as listening to lectures, viewing, and hands-on experiences, will be useful for the future development of the autonomous driving field. In addition, the introduction of communication with remote locations using the Internet has been well received, and we hope that it will serve as a reference when similar events are held in the future.
- C) Web seminars to compensate for the decline in appeal due to these real-world events are being widely adopted by society in general under the corona crisis, and are held as appropriate for this project. It seems that a certain effect was obtained in the sense of promoting understanding of topics in the field of driving. Participation from a remote location and participation in a busy schedule were possible, and it was a meaningful method to continue in the future.

## 1. Background and objectives

### Background

#### **Increase the social acceptability for the implementation of the automated driving technology**

- Need to Utilize the automated driving technology to improve the lack of human resource and to advance the logistics and transportation service.
- Need to appeal and communicate relevant and right information about autonomous driving technology, as one of the most critical topics to increase the social acceptability.

### Objectives

#### **Establish the cooperative relationship with local communities**

- Communicate and discuss with the variety of citizens face to face and/or online, to establish a cooperative relationship in local community.

#### **Promote the implementation of the automated driving(AD), enhancing the alliance among the regions and the start-ups engaged in AD**

- Share, discuss and improve the issues among relevant stakeholders of the regions/the start-ups, to jointly promote and realize the implementation of the autonomous driving, disclosing those discussions and results to the public for increasing the social acceptability.

## 2. Outline of the activities

### 1) Dialogue with the citizen

- Area : Maebashi-city, Gunma pref.
- Time/Date : 13:00~16:30, Jan 27, 2021
- Method : Online meeting
- Discussion theme : Ideal form of the city with the automated driving

### 2) Summit for the automated driving system in the regions

- Time/Date : 14:50~17:30, Mar 25, 2021
- Place : TOC Ariake Hall, Tokyo
- Method : Online and onsite (Hybrid discussion)
  - From each region : Remotely join through web meeting system
  - From the start-ups, SIP and others : Join at TOC Ariake Hall
  - Onlookers : Watch YouTube Live
- Discussion theme : Automated driving showcase to shift the future~ Share and discuss the current issues, among the stakeholders, aiming for the implementation of the autonomous driving in order to improve and solve the issues
- No. of onsite visitors : 105, no. of audience on YouTube Live : 556

### 3. Details of the activities in 2020

- Two events were held in FY2020, one is the dialogue with the citizen and the other is the summit for the automated driving system in the regions.

#### **1) Dialogue with the citizen**

Remote discussion with the citizen living in Maebashi-city, Gunma pref. utilizing the web meeting system, under the declaration of a state of emergency due to COVID-19.

#### **2) Summit for the automated driving system in the regions**

Share and discuss the current issues among the stakeholders, aiming for the implementation of the autonomous driving system in order to efficiently and effectively improve and solve the issues based on the cooperative relationship among those.

## 4. Details of the events

	1. Dialogue with the citizen	2. Summit for the automated driving system in the regions
Time/Date	13:00~16:30, Jan 27, 2021	14:50~17:30, Mar 25, 2021
Place/Method	Online meeting	TOC Ariake Hall, Tokyo/Online and onsite (Hybrid discussion)
Moderators	Ms. Rumiko Iwasada, SIP-adus	Ms. Rumiko Iwasada, SIP-adus
Discussion theme	Ideal form of the city with the automated driving	Automated driving showcase to shift the future
Participants	Citizens of Maebashi-city (15 people) Mr. Ogitsu, Associate Prof. of Gunma Univ. Mr. Nagumo, Deputy MGR of Maebashi-city Mr. Oguchi, Prof. Of the Univ. of Tokyo./SIP-adus Mr. Arimoto, Sub PD of SIP-adus Mr. Shimizu, SIP-adus Ms. Iwasada, SIP-adus Mr. Ishii, SIP-adus	Cabinet Office : Deputy Minister, Mr. Mitsubayashi METI : Deputy Minister, Mr. Ejima MLIT : Deputy Minister, Mr. Onishi SIP-adus: PD, Mr. Kuzumaki Iinan town, Shimane: Mayoe, Mr. Tsukahara Eiheiji town, Fukui: Mayor, Mr. Kawai Kamikoani town, Akita: Mayor, Mr. Kobayashi Chatan town, Okinawa: Mayor, Mr. Noguni Higashioumi city, Shiga: Mayor, Mr. Ogura
Visitors	–	No. of onsite visitors : 105, no. of audience on YouTube Live : 556
communication by media	2 articles by Jomo Shimbun and Kotsu Mainichi Shimbun	3 articles by Kotsu Mainichi Shimbun, Response, and Merkmal

## 4. Details of the events

### 4-1. Dialogue with the citizen

- Active and live discussions were realized among a variety of the citizens about ideal form of the city with the automated driving.



# 4. Details of the events

## 4-2. Dialogue with the citizen : Graphic Recording

■ The visualization of the discussion as Graphic Recording was introduced to facilitate the meeting.

グループディスカッション②  
これからのまちや移動の理想像と自動運転 グループ A

戦略的イノベーションプログラム (SIP) 自動運転  
 市民ダイアログ 群馬県前橋市

### 日常生活や移動で、より住みやすい前橋市とは？ 自動運転は どの役に立つ？

😊 **自動運転は 楽しい？**

- 「人間よりも安全安心と思う」
- 「小さい乗り物など手軽に利用したい」

**住み良い前橋**

コンパクトシティ  
コンパクトシティ

**分散と集約で**

エリアを形成して役割を分ける

😞 **自動運転は 怖い？**

- 「海外の事故はあるが導入しながら改善したい」
- 「乗.取られたり.情報不安は ある」
- 「いざと言う時.人がいないのは大丈夫？」

**実証実験の認知**

不安を取り去るために... 「知ってらう参加したい！」

**非日常の経路を ルートパターン化**

休日  
通勤

**郊外で無い所を 集約して連携**

人が集まる場所を つくる, かんがえる

**悪循環が脱却**

「発信 → 参加 → 理解 → 安心」

**土地再開発 計画に租込**

「住みやすいと始まる」

これからのまちや移動の理想像と自動運転 グループ B

戦略的イノベーションプログラム (SIP) 自動運転  
 市民ダイアログ 群馬県前橋市

### Q4. 自動運転車技術が導入されると日常生活の どの面が役に立ちそうか.逆に不安や心配な点は何か.

アメリカ(スーパード) 10代でも車を運転できる.

**「やるせやうないか」 市民が声をあげよう!**

前橋のライフスタイル. 行政 おまかせ提案を.

「主要な場所が 表」

「街の回遊をすばる」

**高齢者にとつて タクシーは高**

公共交通は限. テラポジの交通網に 漏れている.

「優しいものを (原始的な)」

「まさか空に回IC」 ←「まさかには集約?」

「車利用前提」

「点と点をあつる?」

「高齢者のため」

「モビリティサービス視点で考えるとできる?」

「若い人(乗らない)」

「隣の地域で一点に」

「今のうちから取り組んでい」

「前橋市は. 将来に対して 大きな強みを持てる」

Graphic Recording by / イエス間彩記

Graphic Recording by Koshima Hiroki



## 4. Details of the events

### 4-3. Dialogue with the citizen : Communication by media

- Outcome of the event was communicated through media, aiming for the increase of the social awareness and acceptability.

#### Jomo Shimbun (Jan 28, 2021)

**前橋** 自動運転 在り方探る

オンラインで意見交換

内閣府は27日、自動運転社会の在り方などについて意見を交わす「市民ダイアログ」をオンラインで開き、国の担当者や前橋市民ら約20人が、ビデオ会議システムを活用して話し合ったII写真。

自動運転技術の実用化と普及を



目指す国の「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」自動運転」の担当者、大口敬さんは「(自動運転の実用化には) 技術・法制度・社会的受容といった課題を産官学で解決することが必要」と説明。群馬大次世代モビリティ社会実装研究センターと前橋市交通政策課の担当者は、上毛電鉄中央前橋駅-JR前橋駅間で行われている自動運転バス実証実験など市の取り組みを紹介した。

後半は、学生や主婦、交通事業所職員らが意見交換。「免許返納後は生活しにくい、今のバスは不便」「子育ては車の移動が多く親の時間ロスにつながる」といった声は、今後の国や市の取り組みに活用されるという。

市民ダイアログは、自動運転の理解向上のため、実証実験を進める自治体を中心に開いている。

#### Kotsu Mainichi Shimbun (Feb 1, 2021)

前橋市で「市民ダイアログ」 自動運転をテーマに意見交換

託している住商アビエム 自動車総合研究所が実施した。

SIP自動運転プログラム

国の有本建男サフディレクターやサービス実装推進ワーキンググループの大口敬氏が同プログラムの現在の進行状況などを紹介。また自動運転バスの実証実験に取り組んでいる群馬大学次世代モビリティ社会実装研究センターの小木津武樹副センター長が同大保有の自動運転バスを使用して

全国各地で取り組んでいる実証実験などについて解説した。

このほか前橋市役所交通政策課の南雲貞人副主幹が2月15、28日(水曜)と木曜は除く)に実施する自動運転バスの実証実験について紹介した。

同市では「レベル3」の遠隔型自動運転バスの導入を目指し、2018年に全国初の実営業路線での実証実験を中央前橋駅-前橋駅間で実施。19年には2台同時運行による実証実験も行った。

今回の実験はこれまでの実証実験での課題を踏まえ、5G通信技術の活用や顔認証技術の検証などを主なテーマに取り組む方針だ。その後市民の意見交換が行われた。

参加したのは運転免許返納者とその家族、公共交通や自転車を利用して通学している中高生、バスなどを利用して通院しているお年寄り、中心街地の商店業者らが様々。

参加者からは「市民の日常生活や社会の課題解決に自動運転はこう役立つかを主テーマに、自動運転時代に向けての期待や不安などを話していた。

## 4. Details of the events

### 4-4. Summit for the region

- The presentations and the panel discussions among the relevant experts were followed by Q&A sessions with the audience.



# 4. Details of the events

## 4-5. Summit for the region : Graphic Recording

- The visualization of the discussion as Graphic Recording was introduced to facilitate the meeting.

**2021年3月25日 TOC有明コンベンションホールWEST**  
**地域自動運転サミット**  
 パネルディスカッション:第1部  
**地域の課題**

全国各地から、5箇所の自治体  
 島根県 飯南町  
 福井県 永平町  
 秋田県 上小阿仁村  
 茨城県 北谷町  
 近江市  
 山形県 交通の要  
 山形県 交通の要  
 山形県 交通の要  
 山形県 交通の要

**ディスカッション・Q&A**  
 Q. サステナブルな運営もどう可能にする?  
 移動手段以外の活用  
 身近に感じてもらおう  
 観光ツアー  
 お買物ツアー  
 イベント  
 自動運転への新たな接点  
 NEW TOUCH POINT  
 一生涯命を大人たちに見せた  
 興味を持つ子どもたち  
 大人が自動走行を  
 受け入れるためのポイント  
 by 小学6年生

**各社の取り組み**  
 自動運転の取り組み  
 西日本鉄道株式会社  
 みちのりHD  
 株式会社ZMP  
 BOLDLY株式会社  
 株式会社ティアフォー

**パネルディスカッション**  
 Q. 地域の不動産価値は上がる?  
 移動手段としての自立  
 工場の価値  
 Q. 無人の事故が不安という声はあり得るか?  
 安心感と不安  
 声はやはりある  
 正常な1歩  
 Q. 物流支援ロボットの空港の荷物も支援?  
 今回のレベル2-3で実現はいる

**自動運転モビリティに学ぶ**  
 27所自治体自動運転バスの実現に貢献  
 JPN Taxisを信じた実証実験  
 危険運転への対策  
 地域住民の巻き込み  
 モデル  
 どうすれば安心できる?

**うまくいったこと**  
 こどもとお年寄りも参加機会創出  
 長年実証で社会実装OK!  
 安全が「便利」へ!  
 観光モデルは!  
 地域資源再発見  
 人材育成

**困りごと**  
 路上駐車  
 持続的な運営  
 無人の良きこと  
 できるかな...  
 変な話!  
 行政や事業者とのコミュニケーション  
 官民が一歩前進している感じが強くなった。

Graphic Recording by: 関美穂子

# 4. Details of the events

## 4-6. Summit for the region : Communication by media

### Response (Mar 30, 2021)



国家的プロジェクトである戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の第2期自動運転では、3月25日～26日の2日間わたって“未来を変える自動運転ショーケース”を開催。同時開催された「地域自動運転サミット」の最後のプログラムを紹介したい。

#### 安全性を高めるため、社会インフラを整備することで対応した西鉄とみちのり

そのプログラムは、「次世代公共交通システム」の自動運転車両を運用する事業者が見え交換をするディスカッションの場として設定された。討論には自動運転サービスの実用化に向けた取り組みを進めている事業者として、みちのりホールディングス、西日本鉄道、ティアフォー、BOLDLY、ZMPから各代表者が出席。国際モータージャーナリスト清水和太氏の進行の下、自動運転サービスの実用化に係る課題等話し合った。

最初に報告したのが西日本鉄道。昨年10月22日から26日間にわたって、北九州空港と、鉄道駅や海岸部の事業所、住宅地などを結ぶ交通網の確保を目的に、中型自動運転バスの実証実験を行った。実験では一日6往復、計308往復を運行し、2592人が乗車した。実験のポイントは大きく2つあり、一つは見通しの悪い大規模交差点にカメラとLi-DARを設置し、AIが画像処理して危険を検知するシステム。もう一つが事前にバーチャルシミュレーションを使って車両の挙動や事故が起きうるケースを確認するものだ。



### Merkmal (Apr 3, 2021)

Merkmal • MaeS • まちづくり • 自動運転社会の鍵を握るのは子供たち？ 社会受容性獲得にあの手この手

#### 自動運転社会の鍵を握るのは子供たち？ 社会受容性獲得にあの手この手

2021.4.3 Merkmal編集部

Twitter Facebook BI Bookmark LinkedIn Pocket Mail COPY Print

キーワード: 自動運転, バス, ウィラー, ZMP, ホンダ, 西鉄, BOLDLY

もう技術的にはいつでも走らせられる——運転手無人の自動運転バスがついには日本で走り出した。その節目で行われた国主催のシンポジウムでは、社会受容性の獲得に向けて各地域の工夫が報告された。

#### 社会受容性のカギは「見た目」と「子供」？



まだ自動運転ではないが、ウィラーが東京の池袋で運行している小型の電気バス「IKEBUS（イケバス）」も、園庭のない保育園の子供たちを公園まで送迎する役割を担っている。その公園に訪れてみると、子供たちがイケバスに集まり、「イーケーバースー！」の掛け声で集合写真を撮る光景に遭遇した。

ウィラーによると「日常茶飯事ですよ」とのこと。村瀬社長はイケバスを自動運転化したい意向を示しているが、この子たちはまさに「自動運転ネイティブ」になりそうだ。

## 5. Other activities

- Produced and uploaded the following 34 videos at web channel “SIP café on Tube”, clearly explaining the relevant legislation, technology development, verification test, implementation, future vision and current status, in order to foster public acceptance and avoid overconfidence, distrust and misunderstanding for autonomous driving.

### 【Outline of the videos】

- Introduce recent trends about autonomous driving technology
  - Advanced Driver-Assistance Systems in the current market (8 in total)
  - Interviews with the relevant experts to understand the latest status to promote autonomous driving technology (8 in total)
  - Introductions of activities in local regions to promote autonomous driving technology (5 in total)
- Introductions of SIP-adus’s relevant activities (13 in total)

## 5. Summary

### **1) Opinions at the dialogue with the citizen in Maebashi-city**

High expectation for automated on-demand/last mile transportation was shown because of the current high dependency on the personally owned vehicles, as well as for safer traffic/less traffic accidents with automated driving busses. Some elderly audiences are worried about unmanned vehicles in case of sudden accidents or illness happened without driver who can help them. Expectations for making city more compact/centralized as well as for inviting more people to downtown area are also mentioned.

### **2) Opinions at the summit for the automated driving system in the regions**

The local municipality pointed out issues such as enhancement of customer service quality, social acceptability in the region and feasibility as business. The start-ups suggested that the AD is not only accepted but also accelerated toward the implementation in the region when it can gain understanding, cooperation and ownership of the citizens.

### **3) New normal during COVID-19 period**

Nearly 600 people viewed online, while approx. 100 people visited onsite. More than half of them joined from outside of Tokyo metropolitan area, this was resulted from the increase of the touchpoints owing to the digital advantage. For the next step, It will be promoted to make a sustainable system, which can communicate more with citizens based on our know-how, raising the reliability and the efficiency of event management, securing more touchpoints with citizens by our experienced teams, and utilizing advantage of online event to gain more audience.

## 1. Dialog with the citizens (Yokohama city) ~ Outline

Outline	
Date/Time	Jun 10, 2021 (Thu) 13:00~14:30
Place	Online meeting (All of the panelists gathered and joined the meeting at Fukuracia Tokyo Station.)
MC	Ms. Rumiko Iwasada, SIP-adus member
Purpose	In Yokohama-shi, strong collaboration among public authority, private companies, academia and the citizens have been promoted aiming for better and optimized transportation for the residents. In order to learn from it for enhancement of social acceptance for automated driving, "TOMIO CART", one of the new transportation services there, was picked up for the discussion theme.
Program with the panelist	<p>【Program】</p> <p>1) Keynote speech (Introduction of activities of SIP-adus, Ideal future for the transportation in the suburbs of big city, Activities as a local traffic in suburbs of Yokohama-city for mobility support to be required in suburbs surrounding big cities)</p> <p>2) Panel discussion (Introduction of "TOMIO CART" activities involving local citizens, what is a suburb where citizens want to stay longer and a mobility to realize this suburb)</p> <p>【Panelist】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Mr. Fumihiko Nakamura, professor of the Univ. of Tokyo, Mr. Hideki Katsumata, Manager of Yokohama city, Ms. Asano Mitsuda, manager of Yokohama-shi, Ryo Ariyoshi, Professor of Yokohama National Univ., Mr. Chihiro Kikuta, Manager of Keihin Kyuko, Mr. Kazuo Shimizu, member of SIP-adus/International automobile journalist</li> </ul>
Viewer/Respondent	Number of online viewer : 384, Questionnaire : 103
Media report	Nikkan Jidousha Shimbun, Koutsu Mainichi Shimbun



# 1. Dialog with the citizens(Yokohama city) ~"TOMIO CART" in Yokohama

## 1. Provide potential passengers with appealing vehicle design and exciting CX

The improved car design was realized together with local citizens and YNU students by adding distinctive exterior designs.



【Opinions from the web viewers】

- Impressed by the panelist's opinion that appealing "This is autonomous vehicle running on the street!" to the public for its unique and distinctive design far from typical car form, is very important to attract the residents to try a test ride.

## 2. Regularly discuss with the residents, understand the needs based on the probe data and reflect to the service

Evolve residents as well as vehicle and services, changing bus routes to run more efficiently based on detailed and analyzed data showing how local residents really move, and also organizing regular meeting with local residents to know how to improve the buses and providing services.



## 3. Share the workload and the cost by the whole region, coordinating the stakeholder's interests by the promoter

- Study ideal transportation service not only by the local traffic operators and users but also with local business operators, medical service providers, etc. in whole region
- Promoted by regional traffic operator responsible for the whole local area planning and development together with the local academia.



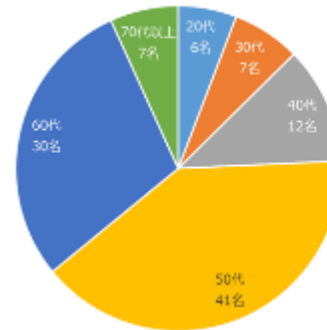


# 1. Dialog with the citizens (Yokohama city) ~Questionnaire(103 replies)

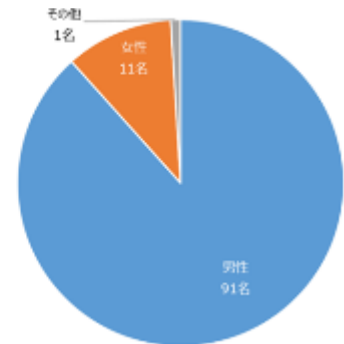
## ■ Characteristics :

Most of the viewers were men in his over 40s.  
Need to appeal to various types of people, making them more interested.

Age



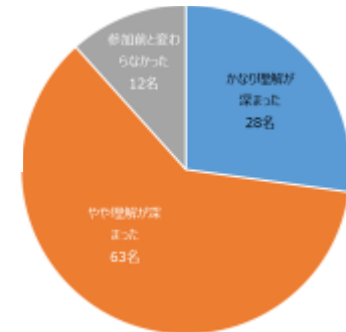
Gender



## ■ Understanding of automated driving :

Approx. 90% of the respondents replied that their understanding has become deeper.

Did your understanding for automated driving become deeper?

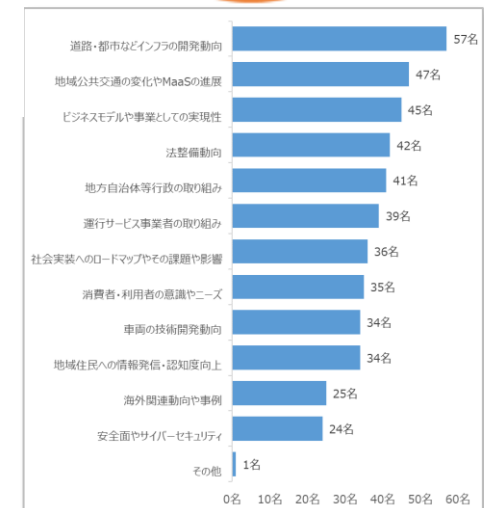


## ■ Interesting topic in the future :

<Top3>

- 1.Trend of road/infrastructure development (57 replies)
- 2.Evolution of local transportation/MaaS (47)
- 3.Sustainability of the business model (45)

What is your interesting relevant topic?




Requiring to discuss and communicate more of issues found in wider scope surrounding the automated driving technologies.

# 1. Dialog with the citizen (Yokohama city) ~Graphic Recording

- Visualized the discussion result with the following graphic recording.


## SIP 自動運転市民ダイアログ：パネルディスカッション

### 住み続けたい郊外と そのための移動 とは ~市民との共創型課題解決



#### 横浜での取り組み

\*市としてではなく、民間地域での実践



横浜市会議員 岡田 正徳  
TOMIO CART  
とみおカーと実験  
「みんなとつくっていく、公共交通」  
3年かけてデータを  
集めてルート策定

自由な生活  
誇りに感じる  
立派なまちづくり

京急 電鉄

山崎 隆夫

#### MaaS は手段。共創型課題解決の流れとは

MaaSは目的の為の手段

生活者が考え方を  
国・行政・自治体と動く

1社単独でなく 地域住民  
民間企業

巻き込まれながら動く

住民意見が  
集まった!!

興味を  
持つて貰う

自主!!

OPEN YOKOHAMA

勝俣 英樹

#### 視聴者さまからのご質問

真のニーズを汲み取るには?

あつた... 作... (思わぬ...?)

!!!! 本気 になって貰えるか

既存公共交通との両立は?


競争 ではなく 補完・共存 には!

マネタイズは?

黒字!! というのが 地域が元気になる


変わる!

配信視聴者のみなさま




SIP 自動運転・推進委員会構成員  
国際コーディネーター

清水 和夫 氏




東京大学大学院 情報学環 知能科学研究所  
特任教授

中村 文彦 氏




横浜国立大学大学院  
都市イノベーション研究員 特任准教授

有吉 亮 氏




京浜東北線株式会社 企画推進部 部長

菊田 知展 氏




横浜市政府 運輸局 計機課課長  
企画課 総合課長

勝俣 英樹 氏



横浜市政府 都市整備部 企画課  
企画課 担当課長

光田 麻乃 氏




SIP 自動運転・推進委員会構成員  
コーディネーター

岩貞 るみこ 氏

2021年6月10日 SIP 自動運転市民ダイアログ：横浜での取組から考える都市郊外の移動 ~自動運転の社会実装に向けて グラフィックレコーディング

Recorded by Graphic Catalyst Biotope

佐入問 彩記 

## 2. Town report on automated driving ~Purpose&Activity Plan

### ■ Purpose :

- Understand the voice of customers linked to local mobility services with automated vehicles and realistic issues for the future commercialization of the service.
- Create and deepen the relationship between the key persons in the region.
- Communicate the information collected through above activities as the public relations.

### ■ Activity Plan :

Post the reports in 15 towns, where automated driving tests are conducted, on the web site "SIP-café".

2021年度  
RoAD to the L4  
**自動運転見聞録**  
楠田えつこのSIP cafeジャーニー  
計画書

SIPカフェ  
全国を走る

日本全国津々浦々、自動運転のあるところを足を選び  
地域の生の声を取材。  
実証実験、サービス実装に見る成果や課題を見聞きし、  
自動運転技術から運用の現状、地域に応じた体制づくりまで  
広く一般の方々に理解いただけるよう、  
新たに取材チーム体制を整えました。

全国行脚の目的

- ・自動運転実証実験はどのような地域で行われているか
- ・自動運転サービスによる課題解決とは
- ・利用者の声/運行側の声を聞く
- ・実証実験に取り組む自治体の情報共有
- ・楠田悦子氏をアンバサダーとして起用し、社会受容性を高める
- ・SNSやウェブ、紙媒体でも情報発信

YouTubeやSNS、自動車専門誌で情報・記事発信

アンバサダー  
楠田悦子  
モビリティジャーナリスト  
Kusuda Etsuko

行脚スポット全15カ所のレポート掲載  
<https://sunuma-news.jp/>

SIP cafe 連載ページで不定期掲載

オンラインツールで情報交換を図る

## 2. Town report on automated driving ~Activity results in FY2021

- Major activity : ①Test ride of automated driving vehicle, ②Shoo videos in town with driving scene, ③Interview the staffs with shooting videos



### Towns visited and reports posted at SIP-café

1	CX of automated driving in Higashi Omi, Shiga	6	Automated driving experience for the tourist in Chatan, Okinawa
2	Automated driving service in Miyama, Fukuoka	7	Automated driving bus in Nishi Shinjuku, Tokyo
3	Automated driving service accepted in Kamikoani, Akita	8	Expectation towards automated driving Lv4 in Eiheiiji, Fukui
4	Automated driving service with the children in town in Iinan, Shimane	9	Casual automated driving service for everyone in Kasugai, Aichi
5	Automated driving service test in Takahata, Yamagata	10	Super mini electric vehicle "C+pod" in Yokohama, Kanagawa

## 2. Town report on automated driving~Review on the activities in FY2021

---

### ■ Reviews

#### Issues to tackle

- Run the service based on deep communication with the residents (e.g. to decide the route, appeal to the kids in town, etc.)
- Synchronize with other transportation for smoother and optimized local traffic.
- Detail study for sustainable business (e.g. Attract customers even after effectiveness of media diminished, cost to transfer bus maintenance center to other prefectures, etc.)

#### Achievements

- Understand the issues in detail in each region.
- Establish the relationship with key persons struggling and managing to improve local traffic availability.

#### Things to improve

- Numbers of the places to visit were 15, while the actual were 10.
- Due to few information on test driving schedule disclosed in advance, it was tough to plan the interview with coordinating the staffs' schedule.
- Establish the relationship with relevant authorities and regularly communicate with them to exchange the information.

## 2. Town report on automated driving ~Action plan in FY2022

---

### ■ Action plan

- Number of the places to visit: around 10
- Achieve the relevant information well in advance to plan and secure the interviews sufficiently.
- Utilize the issues and the key persons we would get to know through the interviews for the planning the concept of regional automated driving conference scheduled in February 2023.

### Visit and interview plan in FY2022 (tentative)

#	Timing	Place	Contact	Remarks
1	May	Fujisawa (Sustainable Smart Town)	Panasonic	Robot for goods delivery
2	Mid of May	Iinan, Shimane pref.	HIDO	Collaborate with Flower Festival
3	End of May	Nasushiobara, Tochigi pref.	ABC project	
4	July or August	Nasu, Tochigi pref.	ABC project	
5	October	Utsunomiya, Tochigi pref.	ABC project	Collaborate with athletic festival
6	October	Osaka	Osaka Metro (subway)	Test for Expo in 2025
7	After Dec	Tokyo, Ashikaga(Tochigi), Sakai(Ibaraki), etc.	TBD	Under study

## Citizen's dialogue in Tochigi prefecture

- Purpose: Learn from the alliance led by Tochigi pref. to promote autonomous driving bus, cooperating with the municipalities.

Date and time	<ul style="list-style-type: none"> <li>• April 20, 2022/15:00~17:00 ※One hour each for presentation&amp;discussion</li> </ul>
Theme	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Sustainable mobility service in line with local reality ~challenge by whole Tochigi ("ABC project" for promoting autonomous driving bus in Tochigi)</li> </ul>
Format	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Hybrid with online and offline (Presenters and some audience joined at Tochigi Prefecture Cultural Center.)</li> </ul>
Host	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Mr. Masamichi Ishii: SIP-adus/Motor Journalist</li> </ul>
Facilitator	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Mr. Kazuo Shimizu: SIP-adus/Motor Journalist</li> </ul>
Participant	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Tochigi pref. : Mr. Koichi Sakai, Mr. Masato Anjo</li> <li>• Motegi town in Tochigi: Mr. Kenji Matsuzaki</li> <li>• Oyama city in Tochigi: Mr. Tomohide Azami</li> <li>• Honda Motor, Mobility service, Executice Chief Engineer: Mr. Yasunori Oku</li> <li>• Michinori Holdings, Director: Mr. Kota Asai</li> <li>• (Remote)Hakuo Univ.: Ms. Kawamata, Ms. Kanbe, Ms. Makino</li> </ul>
Audience	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Visitors: 31, web viewers: 195</li> </ul>
Media coverage	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 3 in total (Shimotsuke Shimbun, etc.)</li> </ul>



# Citizen's dialogue in Shobara-city, Hiroshima prefecture

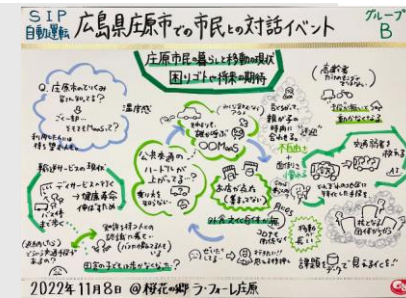
- Purpose: Learn from local activities for mobility evolution based on holistic data management and collaboration scheme around the area and share it with other regions.

## Outline

1.Date/Place On November 8 in 2023, from 2PM to 4.30PM, at La Foret Shobara

2.Theme Sustainable mobility solution for good quality of life ~Data management activity and roadmap to MaaS

- 3.Agenda
- Keynote speech : 30 minutes
    - Introduction of SIP-adus
    - Establishment of Maas in Shobara
    - Mobility evolution and good quality of life through data management
  - Group discussion inviting citizens in Shobara : 2 hours
    - ① : Concerns and requests living in Shobara
    - ② : Expectations and issues for data mgmt. and automated driving technology for ideal future



- 4.Participant
- 【Citizens in Shobara-city】
- Shobara chamber of commerce: Mr. Motohira/Hirata
  - Shobara city office: Mr. Tanabe
  - Bihoku Kotsu: Mr. Yamane
  - Kure college of technology: Mr. Kanda
  - Citizens of Shobara (Highschool students, etc., 8 in total)
- 【SIP-adus relevant members】
- SIP-adus: Mr. Shimizu/Ishii
  - NTT Data: Ms. Nakajima
  - Representatives among Gen Z: Mr. Yamanami. Ms. Takaseki

5.Remarks Conducted tour to see major spots in Shobara for SIP-adus members





# Overview for Automated Driving Live News



An online event to convey the self-driving society to the Z generation

Live News

1st

2nd

3rd

4th

5th

6th

7th

8th

9th

10th

【出演者】

①MC : Mr.Ishii

②Commentator : Mr.Shimizu (knowledge support)

③Generation Z Translator : Mis. Takaseki, Mr. Yamanami, Mis. Hojyo, Mis. Kamakita

④Guests : subject matter experts



清水 和夫氏



高堰 うらら氏



嶺南 達貴氏



北条 かや氏



石井 昌道氏

Leave a legacy

Gen Z Translator

Test-ride event

Debriefing session

Citizen dialogu ①

Citizen dialogu ②



テーマ

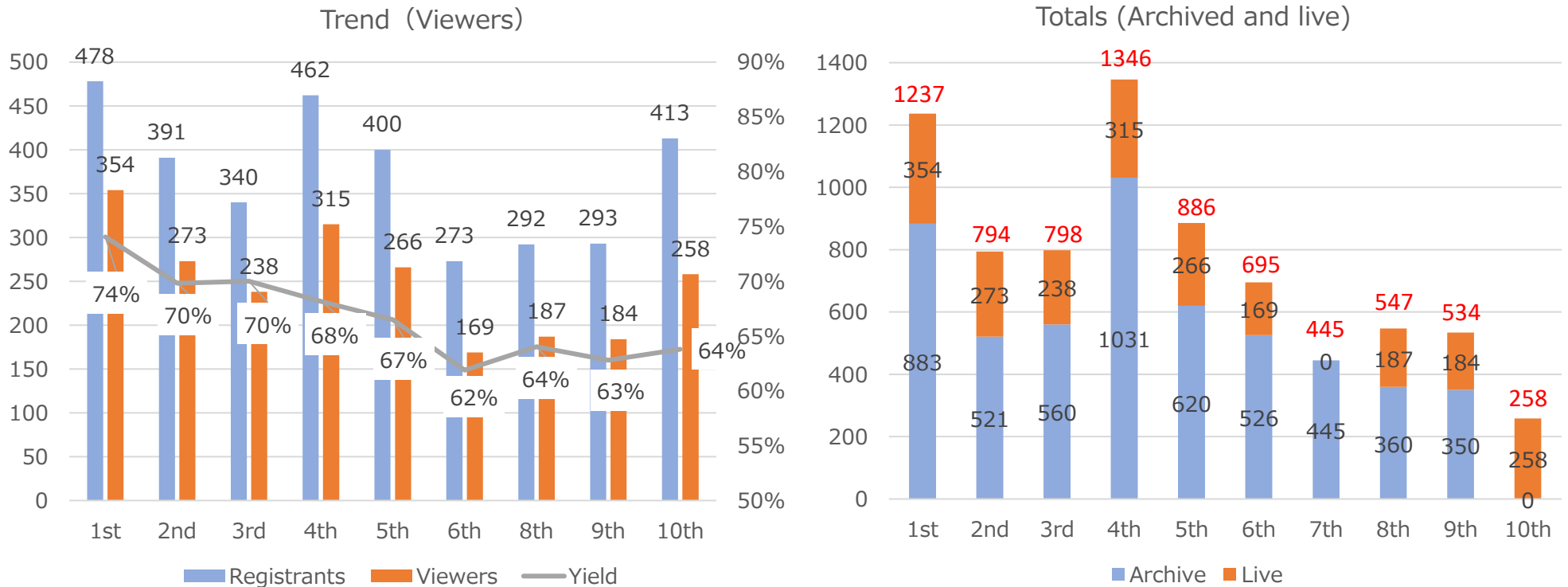
1st (5/16) connected for city ,road and vehicle
4th (9/14) Fundamentals of automated driving
7th (12/20) Challenge Mass
10th (12/20) The future of automated driving

2nd (7/4) Mobility x ○○
5th (10/27) Automated driving test ride report
8th (1/31) What is ASV

3rd (7/21) Think mobility of elderly family
6th (11/25) Dynamic map
9th (2/21) What is HMI

# Achievement of Automated Driving Live News

- The number of viewers varies depending on the theme and delivery date.
- The number of archive views remains stable.
- Compared to other content, the number of playbacks is large.



※The 7th video is not counted because it was archive only.

\*Number of archive views is as of March 16, 2023.

# SIP-adus Symposium

- “SIP-adus Symposium” as a part of “SIP-adus Final Debriefing Meeting” was successfully held in Akihabara UDX with the fully occupied venue.

	Topic	Presenters and panelists
Session 1 7 <sup>th</sup> Mar (Tue) 10:30-12:00	“Actual practice of innovation and the roll of SIP”	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Mr. KYUMA Kazuo (President, The National Agriculture and Food Research Organization) “The content and result of SIP in science and technology policy of Japan”</li> <li>• Mr. ARIMOTO Tateo (Sub-Program Director, SIP-adus) “Overviewing SIP-adus from the worldwide STI policy’s point of view”</li> <li>• Mr. SHIMIZU Kazuo (Constituent member, Service Implementation Promotion Working Group, SIP-adus)</li> </ul>
Session 2 7 <sup>th</sup> Mar (Tue) 14:00-15:00	“9 years’ trajectory aiming implementation of automated driving – Behind the scene”	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Mr. KUZUMAKI Seigo (Program Director, SIP-adus) “Why SIP-adus has succeeded? – Endeavor in project management with industry, academy and government”</li> <li>• Mr. SUGIMOTO Yoichi (Sub-Program Director, SIP-adus)</li> <li>• Mr. ISHII Masamichi (Constituent member, Promotion Committee, SIP-adus)</li> </ul>
Session 3 8 <sup>th</sup> Mar (Wed) 10:00-11:30	“Who makes the ‘brains’ of vehicles? – Semiconductor, OS and application”	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Mr. KATO Shimpei (Founder &amp; CTO, TIER IV, Inc.) “Microautonomy – Creating a collectively scalable automated driving system”</li> <li>• Mr. KAWANISHI Izumi (COO, Sony Honda Mobility Inc.) “Creating a new standard of value in mobility”</li> <li>• Ms. DOI Atsuko (Communication director)</li> </ul>

	Visitors	The number of views*	Total
Session 1	153	1,244	1,397
Session 2	193	801	994
Session 3	167	1,020	1,187
<b>Total</b>	<b>513</b>	<b>3,065</b>	<b>3,587</b>

\*As of 14<sup>th</sup> Mar, 2023. This number may contain double-count by the same viewer.



# Automated Driving Awards

- Automated Driving Awards committee, consisting of experts in the third party, evaluated each activity of SIP-adus and commended for Automated Driving Awards from social and users' point of view.
- On March 7 and 8 in 2023, each commended representative made commemorative speech at SIP-adus exhibition to appeal the significance and value.

## 【Awarded activities】

- Safety Contribution Award: Research study on technologies to counter new cyberattack methods
- Human Factors Award: Research study on HMI and safety education suitable for advanced automated driving
- Innovation Award: Development of techniques to create environments to assess automated driving in virtual spaces
- Social Impact Award: Mobility service using automated driving in hilly and mountainous regions
- Project Sustainability Award: Construction and effective use of traffic environment datasets and the FOTs (Field Operational Tests) in Tokyo waterfront area

## 【Commemorative speech】

		Presentation①	Presentation②	Presentation③	Presentation④	Presentation⑤
Date& Time	Mar 7	12:15~12:30	12 : 30~12:45	12 : 45~13:00		
	Mar 8				11 : 45~12:00	12:00~12:15
Place		AKIBA SQUARE (Akihabara UDX 2F)				
Title		Safety Contribution Award	Human Factors Award	Innovation Award	Social Impact Award	Project Sustainability Award
Awarded activities & Speakers		Research study on technologies to counter new cyberattack methods・ Mr. Okuyama, PwC Consulting	Research study on HMI and safety education suitable for advanced automated driving・ Mr. Sato, The National Institute of Advanced Industrial Science and Technology & Mr. Daimon, Keio Univ.	Development of techniques to create environments to assess automated driving in virtual spaces・ Mr. Inoue, Kanagawa Institute of Technology	Mobility service using automated driving in hilly and mountainous regions・ Mr. Kato, Highway Industry Development Organization	Construction and effective use of traffic environment datasets and the FOTs in Tokyo waterfront area Mr. Minakata, Toyota Motor Corporation



# Town report on automated driving ~Activities and results in FY2022

## ■ Towns visited and reports & videos posted at SIP-café

#	Towns visited/Report & videos posted	#	取材先/レポート・動画
1	「Future MaaS for healthcare」 at Shonan Ai park	6	Navya Arma (Autonomous driving bus) with healthcare application~Futami area, Iyo city in Ehime pref.
2	「Future Tokyo」strategy-cooperative autonomous driving with infrastructure led by Taisei Corporation	7	Autonomous driving bus between Yanaizu and Rikuzenyokoyama of Kesennuma line~Kesennuma BRT in Miyagi pref.
3	“Unprecedentedly elaborated planning”, unique initiative for autonomous driving bus in Tochigi ~Nasushiobara city, Tochigi pref.	8	Autonomous driving service with utilizing magnetic markers~Shimanto city in Kochi pref.
4	Newly established ADAS test facility for NCAP test at intersection	9	Autonomous driving test at National Athletic Meet held in Tochigi pref.~Utsunomiya city in Tochigi pref.
5	Small two vehicles for residents' mobility support ~Taiji town in Wakayama pref.	10	Productive and value added traveling time in the cabin~Nagoya city in Aichi pref.

## ■ Results

### Results

- Early detection of relevant information and preparation of visits and interviews based on constant collaboration with the relevant stakeholders.
- Collaborated and established good relationships with key stakeholders. Produced reports and videos, understanding the real issues in the region.

This report documents the results of Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program (SIP) 2nd Phase, Automated Driving for Universal Services (SIP-adus, NEDO management number: JPNP18012) that was implemented by the Cabinet Office and was served by the New Energy and Industrial Technology Development Organization (NEDO) as a secretariat.